

1. 略歴

1984年3月 東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学
社会保障研究所、中央大学を経て、1993年4月から東京大学助教授
現在 東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

福祉社会学、社会政策、比較福祉レジーム分析

b 研究課題

- (1) 社会政策および社会計画に関する理論的研究
- (2) 日本の地域社会計画に関する実証的研究
- (3) 諸外国の社会政策に関する研究
- (4) 社会保障をはじめとする社会政策に関する政策論的研究
- (5) 福祉国家と福祉社会に関する理論的実証的研究
- (6) 社会政策と社会意識に関する実証的研究

c 概要と自己評価

東アジア諸国における福祉レジームの比較分析をポスト・オリエンタリスト・アプローチによって遂行している。また、公共社会学に関する研究を行い、これを実証的な観点および理論的な観点で、単著と共編著にまとめることができた。また、現在は生産レジームと再生産レジームの発展段階における時間のズレが、各国の福祉レジームにどのような影響を及ぼすかについての研究を進めている。今後、これを継続・発展させることが課題である。

d 主要業績

(1) 論文

武川正吾、「東アジアのなかの日本：普遍主義の可能性」、『連合総研レポート』、319、2016.10

武川正吾、「いま、なぜ子供の貧困か」、『世界』、891、2017.2

武川正吾・角能、「社会保障の分野別に見た高福祉高負担への支持」、『厚生指標』、64(8)、2017.8

3. 主な社会活動

(1) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

福祉社会学会顧問、独立行政法人日本学術振興会事業委員会委員、国立社会保障・人口問題研究所評議員
社会政策学会顧問